

## JHRD-NET ニュースレター

### ●運営委員会（8月29日）

今年度第一回運営委員会が8月29日に開催されました。事務局長より分科会活動内容についての概要報告の後、事務局より『原子力人材育成の今後の進め方』報告書の説明がありました。その後上坂委員より『原子力人材育成の戦略的ロードマップ(案)』について説明がありました。

#### \*『原子力人材育成の今後の進め方』について

原子力人材育成ネットワーク設立の契機となった「原子力人材育成関係者協議会報告書」の提言(平成22年4月)からすでに4年近くが経過し、その間に、福島第一原子力発電所事故が発生し、原子力を巡る情勢は大きく変化しました。このため、原子力人材育成ネットワークでは、平成25年5月に、産学官のメンバーから成るサブワーキンググループを設置して、原子力人材の育成を巡る各機関の現状を再確認し、必要な対応方策を提案することとしました。検討に当たっては、原子力委員会から発信された「原子力人材の確保・育成に関する取組の推進について(見解)」に挙げられた事項をもとに平成25年5月にネットワーク参加機関全体にアンケートを行いました。

このたび、その結果がまとまりましたので、原子力人材育成ネットワーク運営委員会にご報告しました。結果、了承され、公表することとなりましたので、9月18日に原子力人材育成ネットワークのホームページ(お知らせ)上にアップしました。

#### \*『原子力人材育成の戦略的ロードマップ(案)』について

運営委員長諮問会(代表:上坂 充 東京大学教授)は、福島第一原子力発電所事故後顕著となった学生の原子力離れについて危機感を抱き、また、若い世代に対して魅力的な研究プロジェクトや新規国際プロジェクトを提示できていない等の原子力界の問題意識を共有しました。そこで、これらの危機感や問題意識に対処するため、原子力の将来像を思い描き、そこから現在までを振り返ってどのような人材育成の取り組みが必要かについて議論するバックキャスティングという手法で、原子力人材育成戦略ロードマップをつくることとなりました。

将来像では、10年後の原子力のあるべき姿として、①福島の再生、②安全確保、③核燃料サイクル、④国際貢献の4つにポイントを絞りました。

また、それを実現するために組織連携が必要となる人材育成活動について、4つの主な対象(「学生」、「若手技術者」、「中堅技術者」、「海外人材」)ごとに、重要な人材育成項目の実施について、役割分担(「産業界」、「学界」、「国」ならびに「産官学共同」)して取り組むとする人材育成戦略ロードマップ(案)を、原子力人材育成ネットワーク運営委員会にご報告しました。

この原子力人材育成戦略ロードマップ（案）については、運営委員会でのご意見等を反映して修正中ですので、修正版を後日ホームページに掲載いたします。

さらに、今後、広く関係機関の理解を得るべく活動し、次年度以降の関係機関の具体的なアクションにつなげることをしています。

#### ●学生対象施設見学会

昨年度、関西地区の先生方、学生から学生向け施設見学会を是非関西でも開催してほしいという要望があり、今年度第一回施設見学会を関東関西両地区で企画し実施しました。

##### \*実施日

- ・関西 2014年9月4日(木)
- ・関東 2014年9月8日(月)

どちらも参加費無料の日帰りバスツアー（集合まで、及び解散後は参加者の自費）

##### \*見学先

- ・関西 午前 近畿大学原子力研究所  
午後 三菱重工 神戸造船所 及び 二見工場（明石）
- ・関東 午前 放射線医学総合研究所  
午後 東芝 京浜事業所

参加者は関東 15名、関西 21名で、関西は九州、関東は北海道等遠方からの参加者もいました。近畿大学では原子炉とはどんなものか(原子力発電より構造が簡素なため理解しやすい)、放医研では最先端放射線医療技術を知り、三菱重工と東芝では巨大な部品が精度よく製作されている場面を目の当たりにし、最初は緊張していた参加者も後半は質問も活発に出るようになり、最後は皆驚きの表情をしていました。今回も見学後のアンケートでは前向きな回答（興味を持った、感動した、次回は運転中の原子炉での実験が見たい 等）が大多数で、事務局では学生に原子力技術に興味を持ってもらうという目的は多少なりとも達成できたのではないかと考えています。

#### ●原子力人材育成国際会議の開催

各国における原子力人材活動状況、課題等について情報共有を行い、我が国の「原子力人材育成ネットワーク」と国外関係機関との連携協力関係の構築強化を目的として、インドネシアのジャカルタで原子力人材育成国際会議が開催されます。今年度で4回目の開催となりますが、今回は人材育成ネットワークの活用を主テーマとして、各国の様々なネットワークの活用法とその成功例について情報共有をする予定です。

インドネシアの原子力関係機関から約30名、その他 FNCA 関係国を主としたインドネシア以外の東南アジア諸国から約15名、日本産学官の関係機関から約10名、その他 IAEA、ENEN 等、合計約60名の参加者により活発な議論、情報交換が行われる見込みです。

\*日時：平成 26 年 10 月 28 日（火）～30 日（木）

\*場所：Grand Sahid Jaya, ジャカルタ インドネシア

\*主催：日本原子力研究開発機構

\*協賛：National Nuclear Energy Agency (BATAN)

●小中高校における科学教育支援活動に係るセミナーの開催

海外の科学教育支援活動の成功事例の紹介及び日本での活動の紹介を通して、今後の日本での科学教育支援活動の促進に資することを目的として、セミナー「小中高校における科学教育支援活動 ～アメリカでのベストプラクティスと日本の状況について～」が開催されます。参加費無料で、先着 60 名様まで受け付けております。詳しくは、ネットワークホームページをご覧ください。 <http://jn-hrd-n.jaea.go.jp/>

\*日時：平成 26 年 11 月 1 日（土）13：30 ～ 17:00

\*場所：フクラシア品川クリスタルスクエア（品川駅港南口）

(<http://www.fukuracia-shinagawa.jp/access/>)

\*主催：日本原子力研究開発機構

\*協賛：原子力人材育成ネットワーク・初等中等教育支援分科会